



地球の反対側から

オラ Hola!!



サンチャゴ日本人学校 金井 教博

家から外へ出ると^{オラ}Hola（こんにちは）と気軽に挨拶を交わして来るチリ人。顔見知りならわかりますが、全然知らない人が声をかけてくるから驚きです。娘を連れて散歩していると、^{ムイ リンダー}「Muy Linda」（とても、かわいいね）と声をかける人、買い物で娘たちが店内を走り回っていると私に本気で注意をしてくれる人など、子どものことを大切に考える人が多いです。また、日本のアニメやsushi（寿司）、ラーメンなどの日本食の人気はもちろん、「こんにちは」「さようなら」と声をかける人、「いつか日本行ってみたい」と話してくれる人など、非常に親日的な人が多いです。

チリは、日本から直線距離で約17,000km離れており、日本から考えると地球の反対側に位置します。南北に約4,300kmと細長く、北は砂漠、南は氷河、東はアンデス山脈がそびえ、西は太平洋と、気候風土が多岐にわたる美しい国です。サンチャゴ日本人学校は、チリの中央部の盆地に位置する首都サンティアゴにあります。1982年に開校して今年で創立39年を迎え、現在は、小学部24名、中学部6名の子どもたちが元気に学んでいます。

本校では、小学部1年からスペイン語教育と英語教育が行われ、日本語が使える現地講師による授業が行われております。現地校やインター校との交流学习も行い、日本の文化についてスペイン語や英語で発表をしたり一緒に活動をしたりするなど、お互いのこと（文化）を知る機会となっています。また、南米の中では比較的治安が良い国なので（昨年はデモで4日間休校しましたが…）、「コマツの工場見学」「芸術鑑賞教室」「動物園遠足」「消防署・警察署の見学」などの様々な校外学習も行っています。

新型コロナウイルスの蔓延によりチリ国内でも、休校措置、罰則を伴う外出禁止令など自由に外出が出来なくなり、本校ではオンライン授業（web会議による）を新年度から開始しています。そんな中、感染者が増加した3月の末頃から毎日21時になると、ベランダや窓から苦しい状況下で頑張っている医療従事者を称える拍手が続いています。まだまだ、チリ人から学ぶことがたくさんあります。残された任期が1年を切りましたが、目の前の子どもたちのために精一杯努め、異国の地で子どもたちと共に学ぶ時間を大切にしたいです。



ディエシオチョ祭(独立記念日)では、全校でクエカを踊ります。



コマツの工場見学



現地校との交流（コマ作り）



地域の芸術祭に参加（和太鼓クラブ）